

名大トピックス

NAGOYA UNIVERSITY TOPICS

No.282

2016年11月

第12回名古屋大学ホームカミングデイを開催



目次

●ニュース

第12回名古屋大学ホームカミングデイを開催	3
HeForShe IMPACT 10x10x10「大学版ジェンダー平等報告書」発表及び	7
HeForShe モニュメントを学内に新設	
名古屋－エディンバラ ジョイント・ディグリープログラムシンポジウムを開催	8
吉林大学70周年記念式典に出席	8
平成28年度秋季卒業式を挙げる	9
G30学部プログラム第2期生卒業パーティーを開催	9
平成28年度秋季入学式を挙げる	10
バイオ・メディカル・エンジニアリング国際会議を開催	10
第1回教育基盤連携本部セミナーを開催	11
平成28年度名古屋大学機器・分析技術研究会を開催	11

●知の先端

「よく生きる」ということをめぐって	12
松本 真理子（心の発達支援研究実践センター教授）	

●知の未来へ

“Agricultural Spectroscopy”の展開	14
稲垣 哲也（大学院生命農学研究科講師）	

●部局ニュース

名古屋大学モンゴル国立教育大学子ども発達共同支援センター開所式を挙げる	15
解剖弔慰祭を挙げる	15
農業ふれあい教室を開催	16
基盤研究公開セミナー及び先端技術公開セミナーを開催	16
企画展「戦争と大学 ふたたび－軍医と銃後－」と特別講演会を開催	17
ICCAE 第4回オープンセミナーを開催	17
公開講座「子どものレジリエンスを新生児期の支援から考える」を開催	18
第123回防災アカデミーを開催	18
●名大を表敬訪問された方々	19
●新たに締結した学術交流協定	19
●構成員を対象とした研修	20
●本学関係の新聞記事掲載一覧 平成28年9月16日～10月15日	21
●イベントカレンダー	24
●表紙サークル紹介	27
●ちょっと名大史	
名帝大初代総長渋沢元治の <small>こやままつじゆ</small> 小山松寿宛書簡	28

第12回名古屋大学ホームカミングデイを開催





第12回名古屋大学ホームカミングデイが、10月15日(土)、東山キャンパス及び大幸キャンパスにおいて開催されました。当日は、一日を通して気持ちの良い秋晴れとなり、日中は汗ばむほどの陽気となりました。

ホームカミングデイには、「故郷に帰る」という意味が込められており、同窓生が母校に集うだけでなく、在学生の家族や教職員OB、地域の方々も「大家族」として、本学との絆を深めてもらうための交流の場として、平成17年から毎年10月の第3土曜日に開催しています。

今年も、大学院経済学研究科を中心部局とし、メインテーマは昨年の「持続可能社会の実現に向けて」に続き、「環境と経済が共存する持続可能社会の実現に向けて」としました。

当日の運営は、教職員とともに、名大祭本部実行委員会、TEDxNagoyaU 実行委員会及びサッカー部に所属する学生が、来場者への対応、駐車整理などの業務にあたり、各部局においても、教職員と学生が行事を運営し、同窓生や在学生の保護者の皆様をお迎えしました。

当日は、約4,300名の来場者が足を運び、来場者記念品として、ホームカミングデイガイドブック等の入った特製のお土産バッグと、「ミネラルウォーター・名大ラベル」を配付しました。



■学術講演「アジアへ日本公害史の教訓を－公害は終わらない－」

午前中には、豊田講堂シンポジオンホールにおいて、平成28年日本学士院賞を受賞され、元滋賀大学長、大阪市立大学・滋賀大学名誉教授であり、昭和28年経済学部卒業である宮本憲一先生が、「アジアへ日本公害史の教訓を－公害は終わらない－」と題して学術講演を行いました。約170名の来場者に、会場はほぼ満席となりました。総合司会は経済学部2年生の管なな子さんが務め、第2部を平成10年経済学部卒業生である若狭敬一 CBC テレビアナウンサーが務めました。第1部は基調講演、第2部を討論会形式とし、討論者には、宮本先生に加え、昭和49年経済学部卒業生である南川秀樹元環境省事務次官、昭和56年大学院工学研究科修了生である阿部眞一トヨタ自動車株式会社HVシステム制御開発部長及び薛進軍経済学研究科教授を招き、環境と経済について討論しました。

本講演会では、今年4月の「障害者差別解消法」を受け、聴覚障害を持つ方々向けに要約筆記を実施しました。第1部、第2部共に、筆記者が講師の話を要約し、文字をスクリーンに投影する形式をとりました。

また、関連企画として、豊田講堂ホワイエでは、大学院経済学研究科及び宮本先生の研究紹介、経済学部OBによるガラス作品展示等を行い、多数の方が足を運びました。

■名古屋大学の集い

午後からは、豊田講堂ホールにおいて、卒業後10周年、20周年、30周年、40周年、50周年を迎えた周年同窓生の方や、抽選で当選された一般の方を迎え、「名古屋大学の集い」を開催しました。平成14年情報文化学部卒業生であるNHK名古屋放送局の若月弘一郎アナウンサーが司会進行を務めました。はじめに、松尾総長、豊田章一郎全学同窓

- | | | | |
|---|---|---|---|
| | 2 | 3 | 1 |
| 1 | 4 | | 2 |
- 1 ホームカミングデイの開催を伝える大看板
 - 2 学術講演における要約筆記の様子
 - 3 豊田講堂ホワイエの様子
 - 4 国際交流貢献顕彰授与式



会会長からあいさつがあり、次いで、伊藤義人全学同窓会代表幹事から、全学同窓会の活動報告が行われました。続く「名古屋大学国際交流貢献顕彰授与式」では、リザル・アファンディ・ルクマン名古屋大学全学同窓会インドネシア支部長、ジャミラ・モハマド マレーシア・マラヤ大学日本語講師、ヤン・イトウ上海大学教授の3名に、国際的な取り組みに対する功績を称え、表彰状と記念品が授与されました。

休憩を挟み、引き続き、名古屋フィルハーモニー交響楽団によるコンサートを行いました。指揮者には太田 弦氏、ソリストにはヴァイオリニストの島田真千子氏を迎えました。太田氏は、平成27年第17回東京国際音楽コンクール（指揮）第2位を受賞し、これからの活躍に大きな注目が集まる期待の新進指揮者です。また、島田氏は愛知県出身のヴァイオリニストであり、ヨーロッパを中心に活動された後、愛知県でも精力的に活躍され、多彩な演奏活動を展開しています。今回は、アンコールを含め、全4曲が披露されました。

また、午前中には、名古屋フィルハーモニー交響楽団による公開リハーサルを初めて実施しました。普段見ることのできない練習風景に、会場の来場者は興奮した面持ちでした。

■スタンプラリー

今回、初の試みとして、主要施設6カ所（赤崎記念研究



館、減災館、ES 総合館（2008ノーベル賞展示室）、野依記念物質科学研究館（ケミストリーギャラリー）、中央図書館、博物館・古川記念館）を巡るスタンプラリーを実施しました。主要施設6カ所のスタンプ押印を完了した方のうち、先着200名に「名大オリジナルマグカップ」と「参加記念証」を進呈するこのイベントには、多数の来場者が参加し、名大オリジナルマグカップの引き替えは正午過ぎには早々に終了するほど大盛況でした。また、参加者からは「スタンプラリーのお陰で大学の施設を見学することができた」などの声が聞かれました。

■名大生サークルによる活動紹介

シンポジオンホールでは、「名大観世会による能実演」、「NU MIRAI 2016 TALK」を開催しました。名大観世会は、OBも多数出演し、普段、あまり目にする事のない日本の伝統芸能の世界を披露しました。また、NU MIRAI 2016 TALKでは、4名の登壇者を迎え、学生の意見や考えの発信を通して、「NU MIRAI」更には、未来の創造の手助けとなることをプレゼンテーション方式で発表しました。

また、全学教育棟北棟の PHONON CAFE ROOM では、「F&M 秋の大収穫祭2016」を開催しました。生産者と消費者をつなぎたい、という想いで活動している学生団体の普段の活動の様子を紹介しました。





■施設公開「トランスフォーマティブ生命分子研究所 (ITbM)」

昨年完成したトランスフォーマティブ生命分子研究所 (ITbM) では、最新の施設を公開し、化学と生物学の融合研究を推進する研究所のパネル解説、実験装置などの展示を行いました。午後からは3回に分けて概要説明も行い、200名を超える来場者がありました。

■各種相談会

ナショナルイノベーションコンプレックス (NIC) 3階多世代共用スペースでは、男女共同参画室、学生相談総合センター、未来社会創造機構まちづくりプロジェクト、ビジネス人材育成センター (B-jin) の主催で、卒業生向けキャリア支援企画「名大パパ+ママカフェ」が開催されました。今回はパパにも対象を広げ、「職場の上司や同僚、ご近所さん子育てサポーターにするヒント」をテーマに、同窓生同士の出会いの場を設け、グループ車座での座談会を開催しました。

ES 総合館034講義室で行われた「就活サポーター OB・OG プレゼンツ〜己を知ろう、働き方を探ろう!〜」では、OB・OG と共に、自身のモチベーションとそのモチベーションにマッチした仕事を考えていく企画が行われました。



■体験企画「あかりんご隊科学実験『生命の秘密! DNAってなあに!?!』、「名古屋グランパススクールコーチによる親子ふれあいサッカー教室」

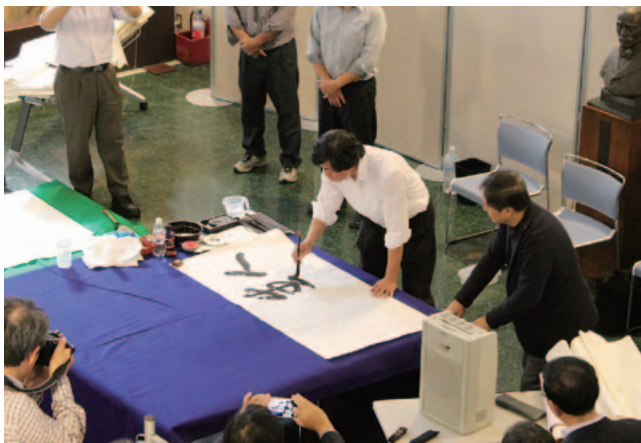
「あかりんご隊科学実験」及び「名古屋グランパススクールコーチによる親子ふれあいサッカー教室」は、毎年人気の小学生向けの企画です。今年も、募集人数を超える申し込みがありました。

本学の理系女子学生で構成される「あかりんご隊」が、子どもたちに実験の楽しさを伝える企画を考え、今年のテーマを「生命の秘密! DNAってなあに!?!」としました。野依記念学術交流館1階カフェスペースにおいて、あかりんご隊が実験方法を説明し、保護者に見守られながら、子どもたち自身の手で、冷凍のプロコラーゼを使った実験にチャレンジしました。

陸上競技場では、名古屋グランパススクールコーチの指導の下、サッカーの基本プレイを学び、ミニゲーム等を行いました。子どもたちだけでなく、保護者の方の笑い声もたくさん響き、広大な人工芝の上で思い切り身体を動かし、怪我もなく、親子のふれあいを楽しむ様子が見られ、大好評でした。

1	2	5	6
3	4	7	

- 1 名古屋フィルハーモニー交響楽団による公開リハーサル
- 2 名大観世会による能実演
- 3 スタンプラリーの様子
- 4 名古屋フィルハーモニー交響楽団によるコンサート
- 5 名大パパ+ママカフェ
- 6 あかりんご隊科学実験「生命の秘密! DNAってなあに!?!」
- 7 親子ふれあいサッカー教室



■見学ツアー「超高压電子顕微鏡施設」

未来材料・システム研究所による超高压電子顕微鏡施設見学ツアーも毎年人気の企画であり、今年も約300名の申し込みがありました。参加者は、地面からの高さが10mにもなる「反応科学超高压走査透過電子顕微鏡 JEM-1000K RS」を間近に見ることができ、熱心に説明を聞いていました。

■中央図書館、博物館、大学文書資料室企画

中央図書館では、オープンライブラリーのほか、「旗本高木家の幕末」と題した秋季特別展を開催しました。「高木家文書」の中から幕末期の資料を紹介しました。

博物館では、企画展「台湾 朱振南 書画の世界－書による日台文化交流と後藤新平の再評価」を開催しました。関連行事として、「書による日台文化交流」と題し、台湾と日本の書家による「書と水墨画」のパフォーマンスも実施しました。

豊田講堂ホワイエでは、大学文書資料室・附属図書館医学部分館共催企画として、「名古屋大学創基145周年記念仮病院・仮医学校から名古屋帝国大学への道」のパネル展示を行いました。参加者は、本学の歴史が紹介された資料に興味深そうに見学していました。



■販売コーナー

豊田講堂南側ピロティの販売コーナーでは、本のリユース市、農産物の販売、大学生協による名大グッズ等の販売が行われました。毎年販売開始前から行列ができる盛況ぶりである本のリユース市では、学術書等手に入りやすい図書が安価に入手できることもあり、今年も多くの方が本を購入していました。農産物の販売では、大学院生命農学研究科附属フィールド科学教育研究センターのある東郷フィールド内の大地で育てられた新鮮な野菜や果物、お米が販売されました。

大学生協による名大グッズ等の販売では、名大オリジナルマグカップや名大オリジナルベジタブルカレーなどの新商品もラインナップに加わり、賑わいを見せていました。

■その他各学部・研究科主催行事等

各学部・研究科においては、市民公開講座、同窓会関係行事、在学生の保護者向け行事等が企画されました。

多彩な分野の講演タイトルが出揃った市民公開講座には、現役の教員だけでなく、名誉教授や同窓生を講師に迎え、同窓生も一般の方も楽しめる講演内容の工夫が凝らされていました。

また、保護者向け行事では、各学部・研究科ごとに、教育・研究内容の紹介や進路・就職状況について説明があり、保護者からの質疑応答や個別相談も行われました。保護者向け行事に参加した方には、日頃、在学生が食べている大学生協の食事の提供も行いました。

参加された多数の方に楽しい一日を過ごしていただき、ホームカミングデイを通じて、本学との繋がりをより一層深めてもらうことが出来ました。来年も10月の第3土曜日（平成29年10月21日（土））に開催しますので、是非、お越しください。

- | | | |
|---|---|-------------------|
| 1 | 2 | 1 「書と水墨画」のパフォーマンス |
| | | 2 販売コーナーの様子 |
| 3 | | 3 市民公開講座の様子 |

HeForShe IMPACT 10x10x10 「大学版ジェンダー平等報告書」 発表及び HeForShe モニュメントを学内に新設



大学版ジェンダー平等報告書発表における記念撮影

IMPACT 10x10x10プログラムの一環として、世界の高等教育機関におけるジェンダー平等に関する初のHeForShe IMPACT 10x10x10 University Parity Report (大学版ジェンダー平等報告書)が、第71回国連総会開催期間中の9月20日(火)、ニューヨーク市の国連本部において、UN Womenによって発表されました。この報告書では、本学を含む世界の主要10大学がそれぞれの具体的なコミットメントを説明し、ジェンダー平等の実現に向けた進捗状況を明らかにしました。本学はコミットメントとして、1)男女共同参画推進のためのセンターの創設、2)2020年までに女性教員比率及び女性リーダー20%への増加を目指す、3)男女共同参画推進のための産学官連携の推進を掲げています。

今回の大学版ジェンダー平等報告書の発表は、UN Women 事務局長、ユネスコ事務局長、エマ・ワトソンとともに、松尾総長、ニューヨーク州立大学ストーニーブルック校、ジョージタウン大学、レスター大学、香港大学、パリ政治学院、ヴィッツウォーターズランド大学、ウォーターloo大学の学長によって行われました。同発表では、

10大学共通のコミットメントである「より安全なキャンパスの構築」の重要性について、代表してポール・ボイルレスター大学長からスピーチがありました。

また、同日夜には、HeForShe 2周年記念レセプションがニューヨーク近代美術館において開催されました。同レセプションには、IMPACT 10x10x10事業のリーダーたちも出席しました。HeForShe 推進のリーダーとして、世界の国家リーダー10名、世界の企業リーダー10名、世界の大学リーダー10名がそれぞれの分野のIMPACT Championとして選出されています。総長を含む上記の学長たちに加え、企業からはボブ・モリッツ PwC 会長、国家リーダーとしてサウリ・ニーニスト フィンランド大統領、安倍晋三内閣総理大臣が出席しました。

さらに、本学において HeForShe をさらに普及させるために、HeForShe モニュメントを地下鉄名古屋大学駅1番出口付近に新たに設置し、10月15日(土)に開催されたホームカミングデイにおいて、HeForShe モニュメント除幕式を行いました。



HeForShe モニュメント

名古屋－エディンバラ ジョイント・ディグリープログラムシンポジウムを開催

名古屋－エディンバラ ジョイント・ディグリープログラムシンポジウムが、10月5日(水)、理学南館坂田・平田ホールにおいて開催されました。本シンポジウムは、大学院理学研究科と英国スコットランドのエディンバラ大学によるジョイント・ディグリー（共同学位）プログラムを実施する「名古屋大学・エディンバラ大学国際連携理学専攻」



シンポジウムでの講演の様子

（平成28年10月開設）のキックオフ・シンポジウムとして開催されたものです。

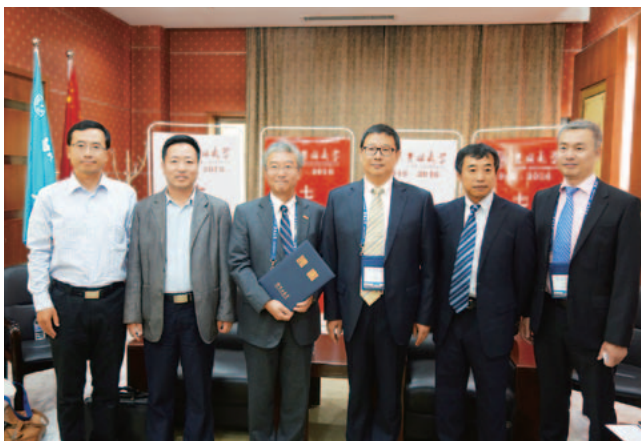
松尾総長のあいさつ、堀尾多香文部科学省高等教育局高等教育企画課国際企画室室長補佐とマット・バーニーブリティッシュ・カウンシル駐日代表による祝辞の後、実施責任者として松本理学研究科長とエレノア・キャンベルエディンバラ大学化学部化学分野長から同専攻に関する概要説明がなされました。あわせて同専攻における物理・化学・生物の各研究分野の説明として、大学院理学研究科関係者及びエディンバラ大学からの招へい者による講演が行われました。また、同専攻の1期生となった曹原氏からも今後の研究における抱負が述べられました。

当日は学生を中心に、学内外から200名を超える参加者が集まり、講演に熱心に耳を傾けるとともに、時にユーモアを交えたスピーチに笑い声も起こっていました。また、質疑応答の場面では、プログラムの具体的な内容、エディンバラ大学の様子など、講演者への質問が盛んに行われ、ジョイント・ディグリープログラム及び同専攻への関心の高さがうかがえるシンポジウムとなりました。

吉林大学70周年記念式典に出席

中国・吉林大学設立70周年記念式典行事が、9月15日(木)から17日(土)までの3日間、吉林大学において開催されました。本学からは渡辺理事、張中国交流センター長、劉同副センター長が出席しました。

15日(木)の午後は、陳崗吉林大学常務副学長を表敬訪問し、今後も引き続き学生派遣をはじめとする両大学の交



吉林大学副学長表敬訪問の様子

流に力を入れていくことについて話し合いました。また、渡辺理事は化学分野の研究成果が評価され、吉林大学の客席教授の称号を授与されました。

表敬訪問終了後、化学学院に移動し、渡辺理事から「Construction of Metalloenzymes」をテーマとした「名大巡講」が行われました。大学院生を中心に約60名が参加し、熱心に質問や、活発な意見交換が行われました。続いて、劉副センター長が本学を紹介し、吉林大学日本語科の4年生が本学への留学体験を紹介しました。

翌日の16日(金)は、吉林大学70周年記念式典に参加しました。この式典には吉林大学の教職員、同窓生や在学生のほか、吉林大学と交流のある22か国から91の大学の200名余の代表が参列し、松尾総長もビデオメッセージで祝辞を述べました。午後は学長フォーラムが開催され、各大学の取り組みについて発表が行われました。

17日(土)の「吉林大学 Family Day」イベントでは、渡辺理事が本学を紹介し、吉林大学の学生が作成した本学への留学の思い出を綴ったビデオが上映されました。吉林大学の学生達と話をするなど、大盛況のうちに終了しました。

平成28年度秋季卒業式を挙行

平成28年度名古屋大学秋季卒業式が、9月27日(火)、豊田講堂において挙行されました。

今年度の秋季卒業生及び修了生は、学部50名、修士課程及び博士課程前期課程65名、医学博士課程及び博士課程後期課程30名、専門職学位課程1名の計146名となりました。

卒業生・修了生の多くは、国際プログラム群(G30)等



総代の辞 (理学部卒業生 中根丈太郎さん)

撮影：ジョン・ウォイディロ理学研究科 G30特任准教授)

の外国人留学生であり、式典はすべて英語で行われる等、グローバルに相応しい雰囲気で行われました。

式典では、松尾総長から各学部の卒業生及び各研究科の修了生の代表に学位記が授与され、次いで、卒業生及び修了生に対し本学における課程を修了したことへのお祝いの言葉と、本学において学んだ知識や技術をさらに研鑽し、世界の発展のために貢献されることを希望する旨のはなむけの言葉が贈られました。

これを受け、卒業生を代表して理学部の中根丈太郎さんから、修了生を代表して大学院環境学研究科のキントス・アラリン・ラピタンさんから、指導教員をはじめとする教職員や多くの友人・家族の支えにより、卒業・修了の日を迎えることができたことへの感謝の気持ち、また、本学での勉強は大変ではあったが、本学で学び経験したことを今後の人生の糧とし、卒業・修了後もそれぞれの道で活躍していきたい旨の「総代の辞」が述べられました。

G30学部プログラム第2期生卒業パーティーを開催

国際プログラム群(G30)学部プログラム第2期卒業パーティーが、9月27日(火)、ユニバーサルクラブにおいて開催されました。卒業生のほか、指導教員、G30特任教員などの教員、海外から出席された卒業生の両親など、総勢100名近くの出席者がありました。

松尾総長からは、卒業生に対し4年間の研究活動に関する



卒業生を前にあいさつする総長

るねぎらいの言葉とともに、保護者に対しては4年間の経済的サポートに対する感謝の言葉が述べられました。卒業生は本学の大学院に進学する者や国内外の大学院に進学する者、就職する者など、道は様々ですが、どの道に進んでも本学の卒業生であることに誇りを持って進学・就職し、一層の飛躍を期待している旨の言葉がかけられました。

会場には、4年間の思い出が詰まったスライドも用意され、時にはそのスライドを見ながら、当時を振り返り談笑している学生の姿も見受けられました。会の途中には、卒業生が4年間の思いを述べる企画も用意され、指導教員に対する感謝の言葉や今後の目標、日本での苦労話などをしていました。

卒業生たちは、時に校旗をバックに総長と記念撮影をしたり、友人同士で記念撮影をするなど、終始和やかな雰囲気のもと、あっという間の1時間の卒業パーティーが終わりました。いつまでも名残惜しそうに友人や指導教員と話している姿が印象的でした。

平成28年度秋季入学式を挙行

平成28年度名古屋大学秋季入学式が、10月5日(水)、豊田講堂において挙行されました。

今年度の秋季入学生は、学部45名、大学院202名（修士課程及び博士課程前期課程103名、医学博士課程及び博士課程後期課程99名）の総勢247名となりました。

秋季入学生の多くは、留学生特別コース、アジアサテラ



祝辞を述べる総長

イトキャンパス学院が実施する「アジア諸国の国家中枢人材養成プログラム」、「大学の国際化のためのネットワーク形成推進事業（G30）」により設置された国際プログラム群等、海外からの留学生です。

東アジア、東南アジアをはじめとする世界各国から入学した留学生が出席する中、式典はすべて英語で行われる等、本学のグローバル化がより感じられる入学式となりました。

式典は、本学交響楽団が演奏する「カノン」（パッヘルベル作曲）で始まり、松尾総長から祝辞が述べられ、続いて、役職員等の紹介の後、大学院文学研究科博士課程前期課程のリモープ・ブラッドリーさん（アメリカ）が入学生総代として、入学にあたって学生としての本分を全うすることを宣誓しました。

閉式後は、豊田講堂内で、晴れやかな表情で記念撮影をする入学生の姿が見られました。

バイオ・メディカル・エンジニアリング国際会議を開催

バイオ・メディカル・エンジニアリング（BME）国際会議「産学連携セミナー」が、10月11日(火)、理学南館坂田・平田ホールにおいて開催されました。海外から招いた3大学は、いずれもこの分野で実績のある、米国のミネソタ大学、ノースカロライナ州立大学、同チャペルヒル校共同BME学科及び仏のストラスブール大学の3校です。



松尾総長、財満副総長、主賓、スピーカー、パネリストによる記念撮影

セミナーには、原 克彦文部科学省研究振興局ライフサイエンス課長、筒井宣政中部医療機器工業協会名誉会長を主賓として招くとともに、この分野における日本の第一人者の方々も、スピーカー或いはパネリストとして、多数参加しました。

本セミナーを開催した背景には、超高齢化社会を迎えつつある現代において、高齢者を中心に、安心安全に暮らせる社会を実現する為の手段として、新たな医療機器、医療サービス、ライフケア製品の開発と普及及びそれを支えるBME教育が益々重要になってくる、という認識があります。この様な時代認識の下、セミナーでは、BMEの分野で先進的な取り組みを行っている海外の3大学から、それぞれの取組状況と開発事例等について説明がありました。更に、中部地区の企業や教育機関から、好事例の紹介を行いました。その上で、パネルディスカッションにおいて、BMEの開発と教育の分野で、如何に産学連携を進めていくかについて活発な議論が展開されました。参加者は、企業から55名、大学教職員33名、大学生22名、全体で163名でした。

第1回教育基盤連携本部セミナーを開催

第1回教育基盤連携本部セミナーが、9月30日(金)、文系総合館カンファレンスホールにおいて開催されました。

同セミナーは、本学の役職員を対象に、平成28年4月1日に設置された教育基盤連携本部が主催し開催したもので、教学IR及び高大接続改革に関し、先進的な取り組みを実施している大学のリーダー又はこれらの活動をリード



講演する川嶋教授

していく立場にある文部科学省等から講師を招き、今後、本学が取り組む教育改革、入試改革の参考に資することとしています。

第1回目は、本学の卒業生で中央教育審議会の各種委員を歴任している川嶋太津夫大阪大学教授を講師に招き、高大接続システム改革会議が平成28年3月31日に「最終報告」を取りまとめた後の具体的な制度設計等に係る検討状況や、大阪大学が取り組んでいる「世界適塾入試」のねらいについて講演していただきました。

当日は、松尾総長のあいさつに続き、「高大接続改革と入試改革」をテーマに川嶋教授が講演した後、参加者との活発な意見交換が行われました。最後に、松下教育基盤連携本部長より、講師へのお礼とまとめのあいさつがあり、セミナーは盛況のうちに終了しました。

次回セミナーは、12月7日(水)に開催することとしています。

平成28年度名古屋大学機器・分析技術研究会を開催

平成28年度名古屋大学機器・分析技術研究会が、9月8日(木)、9日(金)の両日、豊田講堂において開催されました。この研究会は、文部科学省所轄の大学共同利用機関法人、国立大学法人及び独立行政法人国立高等専門学校機構に所属する技術系職員が技術研究発表、討論を通じて技術の研鑽、向上を図り、わが国の学術振興における技術支援



技術職員による国際化に関する発表の様子

に寄与することを目的としています。毎年全国各地の大学等において開催され、今年度は本学が開催校となり全学技術センターの技術職員が企画し実施しました。

今年度の研究会は「技術職員の国際化」と「設備・機器の共用化」をテーマとして開催し、西山聖久工学研究科国際交流室講師、パシヤニタ・タンヨンキット チュラロンコン大学理学部准教授及び秋田大学、本学の技術職員から「国際化についての取り組み」等に関する発表を行い、田村嘉章文部科学省科学技術・学術政策局研究開発基盤課課長補佐からは「今後の設備・機器の共用化について」の講演が行われました。

また、特別講演として、天野 浩未来材料・システム研究所附属未来エレクトロニクス集積研究センター長による「世界を照らすLED」と題した講演が行われました。

研究会には、国内外の大学、高等専門学校、研究所等58機関から355名の参加があり、日頃の研究や教育を支援する業務の中で積み重ねてきた技術について口頭発表やポスター発表が行われました。発表や情報交換会を通して、様々な機関における取り組みについて活発な意見交換が行われ、今後の技術力強化のための有意義な研究会となりました。

「よく生きる」ということをめぐって

松本 真理子 心の発達支援研究実践センター教授

現代の日本社会に生きる子どもや青年はよく生きているのだろうか？

心理学「psychology」の淵源は古代ギリシア時代にあるとされています。当時から関心が向けられてきた「魂とは何か、よく生きるとは」という問いかけは、現代のウェルビーイングに繋がるものです。

私は、現代の日本社会に生きる子どもや青年が「よく生きる」とはどういうことだろうか、ということについて臨床心理学の立場から研究と心理臨床実践を通して考えています。考えるべき重要な要因は、彼らを取り巻く環境です。

「現代」に生きる子どもはよく生きているのだろうか？

まず初めに、環境要因としての「時代」です。時代の要因を探るために、ロールシャッハ法を用いました。インクの上のような曖昧な絵が描かれた10枚の図版を順に見せて「何に見えるか」を問う方法です。1921年の創始以来、世界中で同一の図版が使用されています。図1は1950年代の日本人児童と2007年の日本人児童のデータを比較した結果です。これは「～に見える」と反応するまでの時間（初発反応時間）の平均値を示しています。反応時間が顕著に短縮されていること、年齢差が消失していることが現代の特徴です。その他



小学校



スクールサイコロジストの面接室



中学校理科の授業（ユーチューブで実験視聴）



小学校算数（プログラミング基礎）の授業

フィンランドの学校スナック

の結果を合わせると、現代の子どもは「顕著に反応時間が短縮されている一方、細部を見て複雑な反応を産出することが乏しくなった」ことが示されました。

「現代」に生きる子どもはよく生きているのでしょうか？

日本社会に生きる子どもはよく生きているのだろうか？

次に、「日本社会」という環境すなわち、国の要因です。これについては、「子どもは国の宝」とする思想の浸透しているフィンランドと比較しました。図2はKINDL^R (Ravens-Sieberer, U. & Bullinger, M. 2009) というウェルビーイング質問紙の結果の一部です。QOL 総得点は全項目の合計で100点満点です。高得点ほどウェルビーイングが高いこととなります。結果は、日本の小学校4年生における身体的健康を除くすべての因子で、日本の小中学生のウェルビーイングが低得点であることが示されました。特に、日本人中学生の自尊感情 (Self-esteem) は顕著に低得点です。

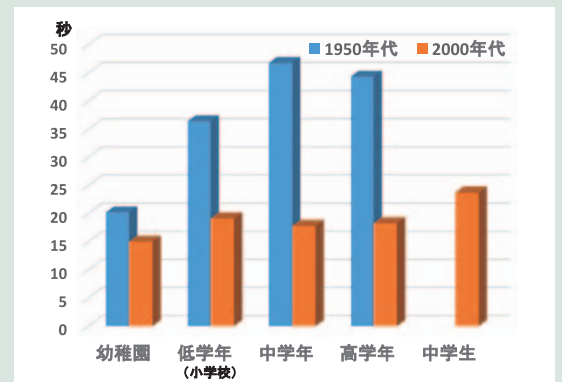


図1 1950年代と2000年代の子どもにおけるロールシャッハ法の初発反応時間 (秒)

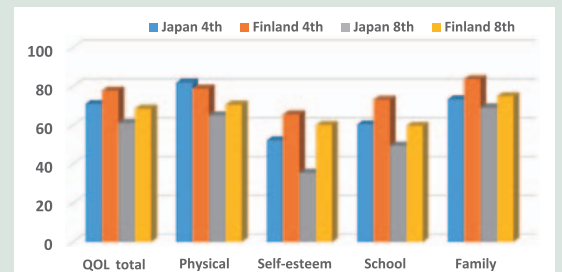


図2 日本とフィンランドの小中学生におけるウェルビーイング (KINDL^R) の結果

表1 日本とフィンランドの小中学生における「わたし」をめぐる連想の結果

4年生				8年生 (中学2年)			
Japan		Finland		Japan		Finland	
構成要素名	出現率 (%)	構成要素名	出現率 (%)	構成要素名	出現率 (%)	構成要素名	出現率 (%)
食べ物 (名) が好き	63.6	楽しい	37.7	部活 (名)	96.5	友達	54.8
友達と遊ぶ	82.8	親切	62.5	芸能人 (名) が好き	78.8	楽しい	39.0
算数 - 数学が好き・得意	72.8	朗らか	64.0	血液型	88.5	音楽	85.7
体育好き・得意	75.4	動物 (名) が好き	30.6	中学生	100.0	動物 (名)	66.7
漢字嫌い・苦手	100.0	感じの良い	41.7	勉強が嫌い・苦手	56.3	家族	71.0
図工 - 美術が好き・得意	92.9	氏名	40.0	めんどうくさがり	70.0	信頼できる	84.2
習い事 (名)	69.6	正直	36.1	人見知り	94.1	スポーツ (名)	42.4
ゲーム (名) が好き・得意	59.8	年齢	28.4	眠い	100.0	正直	61.1
理科が好き・得意	81.1	スポーツ (名) をやる	25.0	バカ	63.6	ユーモアのセンスある	78.9
兄弟とケンカする	100.0	読書 (書名・作者)	25.9	学年組番号	70.0	社会的	86.7

* 出現率は全体の記述数に対する当該群における出現割合表は記述数の順に記載

他の国際比較研究でも日本人は自尊感情が低いことが報告されています。一方、質問紙では日本人の謙虚な国民性が結果の低さに反映されていることも指摘されています。

そこで、質的データによるアプローチも試みました。「わたし」という単語をみて思いつく言葉を20個記載してもらい言語連想検査です。表1は両国の各学年において有意に高頻出であった言葉を示しています。両国の「わたし」イメージの特徴です。日本の小学校4年生は、好きか嫌いかが重要な基準になっています。中学2年になると、表面的な記述と同時に「めんどうくさがり、人見知り、バカ」などの否定的記述が目立ってきます。一方、フィンランドのそれは、4年生、8年生ともに明らかに肯定的記述が目立ちます。

さて、日本社会に生きる子どもたちはよく生きているのでしょうか？

本学の学生はよく生きているのだろうか？

ところで、本学の学生はよく生きているのでしょうか？ 理学学部生344名を対象に前述の「わたし」言語連想検査を実施しました。クラスター分析の結果、本学学生の特徴と思われる一群が示唆され(表2)、94名(27%)の学生が属していました。有意に高頻出であった記述語は「寂しがり、面倒くさがり、努力家、真面目、一人が好き」などであり、この一群を「両価群」と命名しました。

この結果を前にして「面倒くさがりな君たちが、よく生きるとはどういうことだと思いか」と学生に問いかけたところ、ある学生が次のコメントをくれました。『「面倒くさい」というのは新しいも

表2 本学理学系学生における「わたし」をめぐる連想 - 両価群 (N=94, 27%) - の結果

構成要素名	出現率 (%)
寂しがり	69.6
面倒くさがり	44.6
努力する・努力家	84.6
真面目	51.9
1人が好き	78.9
心配症	73.3
気分・感情が変わりやすい	65.0
飽きっぽい	61.0
優柔不断	58.3
大雑把	64.7

* 出現率は全体の記述数に対する当該群における出現割合

のが生まれる理由です。……面倒くさいからもっと楽な方法を考えよう、という思考回路で、僕は技術の開発を目的とするこの学部で人の役に立ちたい』『よく生きよう』とする頼もしい現代青年を彷彿とさせます。

「よく生きる」ということへの接近は、法則定立(Nomothetic)の視点とともに学生の語りにみる個性記述(Idiographic)の視点が不可欠です。本学学生がよりよく生きてくれることを願い、応援したいと思っています。

名古屋大学大学院教育発達科学研究科博士課程後期修了。博士(心理学)。
2008年から現職。
著書は「子どもにとって大切なことは何か〜フィンランドの学校環境と心の健康〜」(2013年、明石書店)、「心とかかわる臨床心理第3版」(2015年、ナカニシヤ出版)、「心の発達支援シリーズ全6巻」(2016年、監修、明石書店)など。
モットーは、「研究は楽しく、実践は真摯にかかわる」。趣味は、新しいことを知ったり初めての場所を訪れて「うわあ〜!!」という感動と喜びに浸ること。

まつもと まりこ



Agricultural Spectroscopy の展開

我々は自然の恵みである木材や農産物を、「住」「食」という日々の営みに取り入れています。これらを加工・生産する現場では多くの個体を対象にするため、「どのような性質・特徴を持っているのか?」ということ、非破壊で機械的に素早く見抜いて、消費者が安心・安全に利用できるようにすることが大切です。私は、農林水産物の非破壊検査に、様々な電磁波領域(X線、可視光、近赤外光、赤外光、テラヘルツ波)の分光法を適応する“Agricultural Spectroscopy”とも言うべきメソッドロジーについての研究を行っています。以下にその実例を紹介します。

近赤外分光法は、非破壊かつ迅速に有機物質の材質を評価できる手法です。しかし近赤外光は試料中で強く散乱するので、光の散乱と吸収を仕分けて解析すべきなのですが、木材のような中空材料では簡単なことではありません。そこで私は、ピコ秒レベルの短時間パルス波を試料に照射し、透過波形を光拡散方程式にあてはめることで試料の光散乱吸収状態を算出する飛行時間分光法を近赤外領域に取り入れ、木材細胞壁の等価散乱係数

($\mu_s' = (1-g)\mu_s$; μ_s は散乱係数、 g は異方性パラメータ) および吸収係数 (μ_a) を把握することを試みました(図1)。ベイマツ材の細胞内こうに屈折率が異なるいくつかの溶媒を含浸させ、フレネル反射の影響を排除して透過波形を測定しました。同法によって推定した含浸木材の μ_s' 、 μ_a と溶媒の屈折率との関係を図2に示します。トルエンを含浸させた試料の等価散乱係数の値が小さくなっていますが ($\mu_s' = 4.97 \text{ mm}^{-1}$)、トルエンの屈折率は木材細胞壁のそれと近いことが分かっていますので、これはとても合理的な結果です。これらの結果から、試料の密度を加味して木材細胞壁の等価散乱係数を推定したところ約 20.4 mm^{-1} になることが分かりました。また、 μ_s' と μ_a を比較すると、細胞壁内の散乱と吸収の比率は約600:1であり、非常に激しい光散乱体であることがわかります。木材細胞壁の等価散乱係数は樹種によって大きな差はないと予測されますので、これらの知見によって、近赤外分光法による木材の材質推定をより精度の高いものに行うことができるようになります。

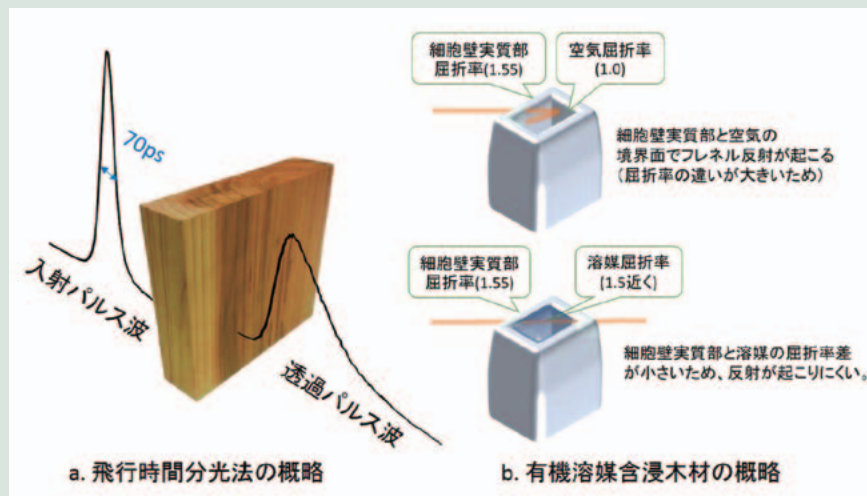


図1 a. 飛行時間分光法の概略および b. 有機溶媒含浸木材の概略

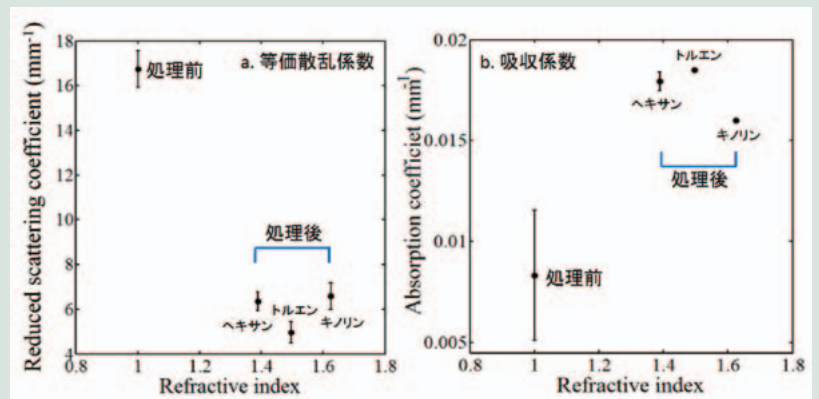


図2 含浸有機溶媒の屈折率と a. 等価散乱係数および b. 吸収係数の関係。等価散乱係数は屈折率が細胞壁と最も近いトルエンを含浸させたときに最小となりました。また、吸収係数は処理前の木材よりも含浸木材のほうが大きい値となりました。これは、各溶媒の吸収係数が空気よりも大きいからです。

名古屋大学モンゴル国立教育大学子ども発達共同支援センター開所式を挙

●大学院教育発達科学研究科、心の発達支援研究実践センター

大学院教育発達科学研究科及び心の発達支援研究実践センターは、9月29日(木)、モンゴル国立教育大学において、大学内に新たに設置された「名古屋大学モンゴル国立教育大学子ども発達共同支援センター」の開所式を挙

行しました。モンゴル国では現在、特別支援教育や発達障害児者への対応を求める声が高まっているものの、特別支援教育や子



テープカットの様子

どもの発達を支援するシステムが整備されておらず、また、発達障害や子どもの心の発達に関する知識やツール、支援人材等が不十分な状況です。このため、大学院教育発達科学研究科及び心の発達支援研究実践センターは、2013年からモンゴル国立教育大学と、モンゴル国の発達障害児の支援に関する共同研究を行ってきました。同センターはこの活動の一環として、モンゴル国の子どもの発達に関する相談と研究のほか、支援人材の育成、モンゴル国における発達障害児の理解促進の拠点施設となることを目的として設置されました。

開所式では、政府関係者、特別支援教育機関の関係者、報道関係者などの招待客30名ほどの参加のもと、モンゴル国立教育大学のフジータミル副学長、本学から金井心の発達支援研究実践センター長がそれぞれあいさつし、ダシドルジマンダフ教員養成学部長、ダンディーオドゲレル同センター長(予定)から同センターの目的や設立の経緯が説明され、学生による馬頭琴の演奏、アセスメント検査道具の紹介やデモンストレーションなども行われました。今後両大学間の共同のもと、同センターを拠点としたモンゴル国の発達障害児の支援の充実が大いに期待されます。

解剖弔慰祭を挙

●医学部

医学部は、10月13日(木)、医学の教育研究のために御献体された故人を慰霊するため、解剖弔慰祭を執り行いました。今年度も御遺族をはじめ、教職員、学生ら約300名が参列し、故人の御冥福をお祈りしました。

式典では、高橋医学部長から「医学への御献体に対し心からの敬意と感謝の意を捧げるとともに、医学医療の進



弔慰祭の様子

歩・発展及び医師・医学研究者の育成のために一層努力する覚悟であります」と慰霊のことばが述べられました。

また、学生を代表して医学部医学科2年加藤幹也さんが「多くの方々の御協力のもと医学を学ぶことに感謝し、医学の発展のために御献体くださった皆様の崇高な御遺志を忘れず、将来のよりよい医療のために日々精進していきます」と御霊と御遺族に対して誓いました。

式典に引き続き、解剖供養塔に御遺族、教職員、学生がお参りしました。

なお、今回供養された献体数は、系統解剖56体、病理解剖20体で、医学部創設以来の献体総数は17,661体となりました。

農業ふれあい教室を開催

●大学院生命農学研究科

大学院生命農学研究科附属フィールド科学教育研究センター東郷フィールドは、10月1日(土)、農業ふれあい教室「親子農業体験-サツマイモとラッカセイの収穫」を開催しました。東郷フィールドでは、地域貢献特別支援事業「都市近郊の農業教育公園」の一環として、平成14年度から毎年、近隣地域の児童・生徒が農業や自然を体験・学習する



サツマイモを観察する様子

機会として、農業ふれあい教室を開催しています。今回は、近隣地域の20家族55名が参加しました。

収穫作業を始める前に、東郷フィールド内の農業館で、5月末に植付けたサツマイモとラッカセイの4ヶ月間の成育を記録した写真を見ながら、これらの作物の育ち方について説明を受けた後、畑に出かけ、土の中で育ったサツマイモとラッカセイを観察し、それぞれの特徴について学習しました。参加者にとって土の中で育ったラッカセイを見るのは初めての経験で、熱心に観察していました。収穫作業では、親子で協力しながらスコップや移植ごてを使ってサツマイモを掘り、ラッカセイは株ごと抜いて食べごろのさやを集めました。最後に、朝から準備しておいた蒸かしイモを味わい、秋の味覚を楽しみました。

当日未明までの雨でぬかるむ足元でしたが、参加者は親子で協力しながらサツマイモとラッカセイの収穫を楽しみました。参加した児童は、担当スタッフに質問しながら、生き生きと取り組んでいました。保護者からは、親子で学習しながら楽しめる同様の企画を次年度もぜひ開催してほしいとの要望が寄せられ、好評のうちに農業ふれあい教室を終了しました。

基盤研究公開セミナー及び先端技術公開セミナーを開催

●大学院情報科学研究科

大学院情報科学研究科は、9月20日(火)、IB電子情報館中棟011講義室において、基盤研究公開セミナー及び先端技術公開セミナーを開催しました。

基盤研究公開セミナーは、地域の皆様と学生に対し、本研究科の活動に興味を持ってもらうことを目的に、先端技術公開セミナーでは、外部の研究者を招いて、産業界が現



基盤研究公開セミナーの様子

在注目している最先端の情報科学技術を紹介することを目的として、毎年開催しています。

基盤研究公開セミナーでは、金森敬文情報科学研究科教授から、統計学でランダムなデータを効率的に計算するための解説があり、続いて、村瀬 洋同研究科教授からは、低解像度の画像情報を組み合わせて最高速度等の道路標識を計算機が情報として認識するまでのプロセスや、計算機による画像認識技術を開発する際に、人の目が反応する特徴を考慮することなどの事例を紹介しながら、計算機が画像を認識する精度の向上へ向けた先端技術について解説がありました。先端技術公開セミナーでは、小川厚徳 NTT コミュニケーション科学基礎研究所主任研究員を講師に、計算機が音声の強調や波長を処理する性能の向上により、複数の混在する音源から人の声だけを取り出すといった事例を通して、計算機が音源を認識するメカニズムの解析について研究が進められていることの説明がありました。

当日はあいにくの天候にもかかわらず、同研究科ホームページや新聞記事を見た地域の方々や学内の教職員ら41名の参加があり、講演終了後には活発な質疑応答が行われ、盛況のうちに当日のプログラムが終了しました。

企画展「戦争と大学 ふたたびー軍医と銃後ー」と特別講演会を開催

●附属図書館医学部分館

附属図書館医学部分館は、6月10日(金)から9月30日(金)までの間、企画展「戦争と大学 ふたたびー軍医と銃後ー」を開催しました。これは、2014年に開催した「戦争と大学」の続編であり、同館4階にある医学部史料室に所蔵する図書、写真、医療器具などを展示公開しました。

1931年の満州事変以降、戦争の拡大とともに軍医として



展示の様子

召集される医師が増えて、医師不足が顕著となり、医師の増員養成が国防上、国民医療上急務とされ、1939年に帝国大学7校などに臨時附属医学専門部が設置されました。

画家藤田嗣治の父嗣章、森林太郎(鷗外)は、陸軍軍医総監となり、『陸軍衛生教程』などの図書を残しています。『光栄録』は1927年愛知県での陸軍特別大演習にともなう昭和天皇による行幸の記録で、本学の前身校である愛知医科大学、第八高等学校なども訪問されています。『写真週報』には、名古屋鶴舞女子機械工補導所の「着物も化粧もそして甘い夢も投げすてて挺身参加するうら若い女性」とあり、窮乏生活から目をそらして、団結を高める記事が掲載されました。軍医の携帯用ヨード丁幾、阿片錠、滅菌ガーゼ包など多彩な資料は、来館者の関心を集めました。

また、9月30日(金)には、大川四郎愛知大学法学部教授を招き「第二次世界大戦中の赤十字と名古屋大学」と題する特別講演会を開催しました。赤十字が視察した俘虜収容所に名古屋帝国大学から寄贈された図書があったこと、抑留所の重症患者が附属病院へ移送されたことなど、本学との関係が明らかにされました。参加者間での質疑応答もあり、参加した市民ら約60名の関心の高さがうかがえました。

ICCAE 第4回オープンセミナーを開催

●農学国際教育協力研究センター

農学国際教育協力研究センター(ICCAE)は、9月30日(金)、農学部第7講義室において、2016年度第4回オープンセミナーを開催しました。今回のセミナーでは、鴨下顕彦東京大学アジア生物資源環境研究センター准教授が、日本やアジアの人々にとってなじみ深い米作りというテーマに関する最近の新しい動向について「越境する米作



鴨下准教授との討論の様子

りービジネス、生態系、技術と持続可能性ー」の演題で報告しました。現在、日本国内を含め世界では、「米作りってこんなものだ」という既存の思い込みを覆すような変化が各地で起こっています。鴨下准教授は、米の主食としての重要性について世界的な視点から概説するとともに、日本の農業生産法人などによる認証特別栽培米のような米作りの取り組みや、小麦やとうもろこしと比べて国際取引の少ない米をマーケットに載せられるような新しいビジネスモデルに関する国内外の事例を紹介しました。また、熱帯アジアや南アメリカにおける稲作生態系の変化に対応した稲作技術の開発と農家の適応戦略、水不足に対応した節水栽培技術の研究開発、耐乾性品種の開発などについて自身の調査研究成果に基づく説明がありました。今回のセミナーは、米作りに関する国内外の最新の話題について様々な角度から議論し、今後の持続可能な稲作について考えるよい機会となりました。

公開講座「子どものレジリエンスを新生児期の支援から考える」を開催

●心の発達支援研究実践センター

心の発達支援研究実践センターは、9月18日(日)、野依記念学術交流館において、公開講座「子どものレジリエンスを新生児期の支援から考える」を開催しました。この講座では、早期の家族支援の介入方法として着目されている新生児行動観察システム(NBO)について、海外から第一線で活躍している先生を招き、日本を含めた世界各国で



公開講座の様子

の取り組みについて報告しました。

NBOの開発者であるケビン・ナーゼント氏は、「新生児期の介入のポイントについて」をテーマに、新生児と家族に対するNBOを使った実際の介入の様子についてビデオを通して講演しました。次に、産後うつや低出生体重児の親子関係の早期介入にNBOを実践的に取り入れているキャンベル・ポール氏が「トラウマを受けた子どもと親への関わり」と題して、事例を交えながら講演しました。最後に、永田雅子同センター教授が、日本における周産期からの支援の現状と課題からNBOの応用可能性について講演を行いました。当日は、93名の参加があり、心理専門職だけではなく、助産師、保健師、保育士、理学療法士など多職種が集い、それぞれの立場から見た早期支援の在り方について活発な討論が行われました。現在、日本においても虐待予防のための養育支援訪問が導入されはじめてきており、このNBOの基本的な考え方は、今後日本における超早期介入において一定の役割を果たしうる可能性があることを共有した講座となりました。

第123回防災アカデミーを開催

●減災連携研究センター

減災連携研究センターは、9月21日(水)、減災館1階減災ホールにおいて、第123回防災アカデミーを開催しました。今回は、吉野 純岐阜大学大学院工学研究科准教授が「地球温暖化時代の台風災害とその対策」と題して講演を行い、75名の参加がありました。

吉野教授は大学では唯一の天気予報を出している方で



講演する吉野教授

す。台風が専門で、講演では、地球温暖化が進むと台風の数が減る一方で、勢力が強くなるという計算結果があり、将来は台風の日本上陸時の中心気圧も下がり、昭和34年の伊勢湾台風を上回る勢力で東海地方を襲う台風が出てくる可能性もあると説明がありました。その場合、名古屋港でも現在の堤防の高さを越える高潮になる可能性があり、もしそのような台風が来た時に最も重要なことは、早めの避難を心がけることです。伊勢湾台風でも早めに避難命令を出した自治体での人的被害は、それが遅れたり、出せなかった自治体に比べて、優位に少なかったという分析結果についても説明がありました。最後の砦は人間の対応とのことです。

今回の防災アカデミーは、前日に台風が日本列島の南岸を通過するというタイミングで開催されました。今年は、例年に比べて日本にやってくる台風が多く、まだまだ油断できません。台風が接近する際は、吉野教授による岐阜大学の天気予報も確認してみたいかがでしょう。気象庁の発表とかなり違う予報が出されているときは、予報そのものが難しく、どちらの精度も悪いとのことです。

名大を表敬訪問された方々 [平成28年7月16日～10月15日]

日付	国/地域	訪問者	目的
7月21日	米国	米国大使館からジェイソン・ハイランド臨時大使代理他3名	表敬訪問、意見交換及び施設見学
7月21日	英国	英国領事館からジュリア・ロングボトム駐日英国公使	意見交換
7月26日	米国	アクロン大学からマチュー・ウィルソン学長他1名	学長就任報告、本学との共同サマースクール開催御礼
7月28日	カンボジア	王立プノンベン大学からチェット・チーラー学長	表敬訪問及び日本・カンボジア学長会議打合せ
8月3日	中国	吉林大学より教授、職員ほか研究生6名	本学での夏季研修実施に伴う表敬訪問及び懇談
8月4日	英国	クリフトン科学財団ディレクター、立教英国学院教頭ほか1名	本学でのUK JAPAN Scientist Workshopの高校生受入に伴う表敬訪問
8月18日	ベトナム、カンボジア等	ハノイ法科大学、カンボジア王立法経大学等から研修生24名	日本法教育センター夏季セミナーに伴う表敬訪問
8月29日	タイ、ベトナム、ラオス	チュラロンコン大学副学長、ハノイ工科大学学長、ラオス国立大学副学長他9名	四大学間学術交流協定調印式への参加
9月1日	英国	セント・アンドルーズ大学からデレク・ウーリンス副総長他1名	学生交換に係る意見交換
9月6日	中国	大連理工大学から梁延徳工程訓練センター長ほか1名	全学技術センター機器・分析技術研究会出席に伴う表敬訪問
9月14日	オーストラリア	マッコリー大学から2名	共同学位（ジョイント・ディグリー）等による研究協力の可能性について懇談
9月28日	シンガポール	シンガポール科学技術研究省・シンガポール国立大学・南洋理工大学・シンガポール工科大学から副学長等5名	表敬及び理工系分野の学生交流についての懇談
10月4日	英国	レスター大学からポール・ボイル学長	表敬訪問及び男女共同参画に関する懇談、学内保育園・学童保育所見学
10月4日	オーストラリア	西オーストラリア大学からケント・アンダーソン副学長	表敬訪問
10月14日	モンゴル	モンゴル国立教育大学からモンゴルムンクジャルガル学長他3名	表敬訪問
10月14日	台湾	台北科技大学 名誉芸術家朱振南氏他2名、国立高雄大学から簡玉聰教授	表敬訪問、現代水墨画「青山不老」、書「自由闊達」等の寄贈式

新たに締結した学術交流協定 [平成28年7月16日～10月15日]

大学間学術交流協定

締結日	国/地域	大学/研究機関名
3月28日	モンゴル	モンゴル保健・スポーツ省 ※
8月23日	カナダ	オタワ大学
8月29日	タイ、ベトナム、ラオス	チュラロンコン大学、ハノイ工科大学、ラオス国立大学
10月12日	ベルギー	ルーヴァン・カトリック大学

部局間学術交流協定

締結日	国/地域	大学/研究機関名	部局名
6月22日	ベトナム	ホーチミン医科薬科大学医療センター ※※	医学部附属病院
7月7日	韓国	全南大学校 機械工学科 自動車研究センター ※※	未来社会創造機構
7月11日	タイ	マヒドン大学 ラマティボディ病院・医学部 ※※	医学系研究科
7月13日	インドネシア	ガジャマダ大学 地理学部 ※※	環境学研究科
8月1日	イタリア	パドヴァ大学 情報エンジニアリング学部	未来材料・システム研究所

※名大トピックス No. 276（5月号）からの追加
 ※※名大トピックス No. 279（8月号）からの追加

構成員を対象とした研修 [平成28年7月16日～10月15日]

実施日	研修名	目的	参加人数
7月20日(水)	NST 学習会 第1回目：栄養管理の基礎	新人看護師に入院時の栄養評価と問題点の抽出などの力を身につけて頂くための必要な知識を習得し看護ケアの向上を図る	81名
7月20日(水)	褥瘡対策チーム 第1回スキルアップ学習会	看護師に褥瘡予防対策に必要なポジショニング方法を習得してもらい、褥瘡発生予防を図る	57名
7月26日(火)	第3回院内 TeamSTEPS 研修	チーム医療を実践するためのツールである「TeamSTEPS」について、グループワークを交えた講義を通じてチーム医療に関する知識の習得を図るため	45名
7月27日(水)	褥瘡対策チーム 第2回スキルアップ学習会	褥瘡リスクは刻々と変化するため、看護師に褥瘡チェック・計画・実施・評価に必要な知識を習得してもらい、褥瘡発生予防・早期治療を図る	49名
8月1日(月)	平成28年度リスクアセスメント (ヒューマンエラー対策) 研修	技術職員の資質向上のため、職員の置かれている環境でのヒューマンエラー発生メカニズム及び事例の確認、その軽減対策の方法を習得させることにより職場でのヒューマンエラーの軽減を図る	15名
8月24日(水)	研究科内安全衛生に関する説明会	「化学物質のリスクアセスメント」を実施することが義務化され、また、「名古屋大学実験機器地震対策ガイドライン」が制定された。制定背景の説明・具体的な手順を聞くことで、どのように実施、対応するかを確認する	92名
8月26日(金)	NST 学習会 第2回目：栄養管理の基礎	新人看護師に口腔ケアの重要性を知って頂き、代表的な困難事例の解決方法を講義実演を行うことで看護ケアの向上を図る	63名
9月1日(木)	平成28年度教務事務担当者実務研修	主に教務事務担当者に就任して1～2年目の者を対象に、教育・学生支援に関する業務の円滑な処理に必要な知識を習得させ、本学の教務系事務全体の質及び効率の向上に資する	39名
9月5日(月)	褥瘡対策チーム 第3回スキルアップ学習会	看護師に体圧分散寝具の種類・特徴を習得し、実際に体験してもらうことで圧抜き的重要性や、寝具を替えただけでは対策不十分であることなどの知識を獲得してもらう	41名
9月9日(金)	ジブリングサポーター研修 ワークショップ	病気を持つ子どもの「きょうだい」は孤立感・罪悪感などを抱えている場合が多い。今回「きょうだい」がもちやすいと言われている気持ちについて学びあい、どのような声かけ・接し方を行うのがよいかをグループワークを通して考えてもらう	59名
9月13日(火) 9月21日(水)	NUCT 利用講習会	授業・研修等の担当者で、これからNUCTを利用される方を対象に、NUCTを理解し積極的に利用して頂くための講習会	10名
9月14日(水)	平成29年度科学研究費補助金公募説明会	科研費に関する現状と今後の動向、応募にあたっての留意点及び今年度は新たに文系におけるアドバイスを行うなど、科研費獲得に向けてのノウハウを重点的に説明し、また、科研に関して知識・経験の深い学内教員をアドバイザーとする個別相談の機会を設け、本学の研究推進のベースとなる科研費獲得の支援を図る	95名
9月15日(木)	第4回院内 TeamSTEPS 研修	チーム医療を実践するためのツールである「TeamSTEPS」について、グループワークを交えた講義を通じてチーム医療に関する知識の習得を図るため	40名
9月15日(木)	科研費獲得に向けての説明会 (鶴舞地区)	今年度からの試みとして、鶴舞地区における科研費獲得説明会を行う。科研費応募にあたっての留意点及び科研に関して知識・経験の深い学内教員からのノウハウなどを説明する。また、臨床研究認定者制度の認定要件のひとつである生命倫理教育委員会が指定する講習会も同時に行う	120名
9月21日(水) 9月26日(月) 9月27日(火)	平成28年度中期医療安全研修 (医療安全講演会)	良質な医療を提供する体制の確立及び個々の安全に対する意識の向上等を図るため	1,439名
9月26日(月)	第28回褥瘡対策講演会	褥瘡が発生した場合、それらをどう評価し、どのような外用薬・創傷被覆材を選択するのが良いか、具体的な症例を基に知識の向上を図る	67名
9月28日(水)	NST 学習会 第3回目：栄養管理の基礎	新人看護師に経管栄養のメリット、栄養剤の種類や特徴などの知識を習得し看護ケアの向上を図る	46名
10月11日(火)	DST 2016年度第1回公開学習会	インスリン関連の事故防止のため、インスリンの正しい知識を習得し看護ケアの向上を図る	48名

本学関係の新聞記事掲載一覧 [平成28年9月16日～10月15日]

記事	月日	新聞等名
1 備える 防災対策は今(8):台風の予報精度高める 坪木和久宇宙地球環境研究所教授らは、航空機を用いた台風の直接観測を進行中	9.16 (金)	日刊工業
2 本学で企業個別選考会 大脳申子男学生支援課長は「3年の12月から説明会解禁を求める意見もあるようだが、学業専念のため大学としては今の日程が望ましい」と語る	9.16 (金)	中日(朝刊)
3 第1回愛知カラオケフェスティバル開催:25日 アモリン・カーシオさん本学大学院生が歌う	9.16 (金)	中日(朝刊)
4 日本経済団体連合会会長榊原定征氏本学卒業生と世耕弘成経済産業相が都内で会談し、成長戦略実現に官民で全力を挙げることで一致	9.16 (金)	日刊工業
5 松尾総長が「UN Women」のキャンペーンで国連本部に招かれ、大学の取り組みの現状や今後の計画を発表する前に「選出された大学のほとんどは欧米の大学。アジアの大学の代表という覚悟で臨みたい」と語る	9.17 (土)	中日(朝刊) 読売
6 ユ・ヨンジェ理学研究科特任准教授らの研究グループは、糖尿病の治療薬「メトホルミン」が作用するたんぱく質を発見	9.17 (土) 9.18 (日)	中日(朝刊) 朝日(朝刊)
7 史上最年少でプロ棋士入りを果たした藤井聡太さん教育学部附属中学校2年生が中日新聞社を訪れた	9.17 (土)	中日(朝刊)
8 博物館:南山大学連携講座「大学博物館が語る、地球と人類のヒストリー」開催:第1回「名古屋大学博物館が目指す自然史科学とは?フィールド調査からわかること」大路樹生博物館教授、第3回「石の道具が語る人類の進化-日本でこたけ! 原人、旧人、新人の道具を見比べよう」門脇誠二博物館講師	9.17 (土)	中日(朝刊)
9 サイエンス View:ニュートリノ「破れ」るか 益川敏英本学特別教授、小林 誠同教授が「クォーク」で理論を提唱したCP対称性の破れが「ニュートリノ」でも起きた兆候をつかんだ	9.18 (日)	読売
10 日曜に考える:「パリ協定」迫る発効 日本どう臨む 積極姿勢で世界リード 高村ゆかり環境学研究科教授	9.18 (日)	日経(朝刊)
11 国立大学協会「大学改革シンポジウム」開催:10月24日 松尾総長がパネルディスカッションに参加	9.18 (日)	朝日(朝刊)
12 2017中部の私立大学・短期大学 大学展:25日 本学の説明会が行われる	9.18 (日)	中日(朝刊)
13 「なごや防災ボラネット」交流学習会開催:17日 本学で行われた	9.20 (火)	毎日(朝刊)
14 第498回中日懇話会開催:20日 山岡耕春環境学研究科教授が講演し「身を守るため、常に災害への想像をたくましくして」と語る	9.21 (水)	中日(朝刊)
15 ロジャー・アダムス賞を受賞した山本 尚本学名誉教授が「ルイス酸触媒」の開発と研究について語る	9.22 (木)	日刊工業
16 山本 尚本学名誉教授が今年のノーベル化学賞の候補者と取り上げられる	9.22 (木)	朝日(朝刊)
17 本学はタイムズ・ハイヤー・エデュケーションの世界大学ランキングで400位以内に入った	9.23 (金)	日経(朝刊) 他2社
18 高橋伸典医学部附属病院講師らのグループが関節リウマチに「シグレック9」を投与すると、関節炎の発症率を下げ、重症化を防ぐ効果があることを解明	9.24 (土)	中日(朝刊)
19 本学主催の「Tongali プロジェクト」が東海東京フィナンシャル・ホールディングスの運営支援する東海東京財団の第1号助成先に決まった	9.24 (土)	中日(朝刊)
20 第59回奨励会三段リーグ:13勝5敗 首位 藤井聡太さん教育学部附属中学校2年生	9.24 (土)	中日(夕刊)
21 本学の研究グループは、これまで半水生動物とされてきたクジラの祖先「アンプロケトゥス」が、実際は完全な水中生活を送っていたことを突き止めた	9.24 (土) 9.27 (火)	中日(夕刊) 毎日(夕刊)
22 第69回中部合唱コンクール:大学職場一般部門 金賞 津市長賞 名古屋大学コール・グランツェ	9.25 (日)	朝日(朝刊)
23 ノーベル賞 いよいよ来週 飯島澄男本学特別招へい教授が化学賞での受賞が期待されると取り上げられる	9.26 (月)	日刊工業
24 成長左右する社会人教育:大学で学び直し 支援を 夏目達也高等教育システム開発部門教授	9.26 (月)	日経(朝刊)
25 国立がん研究センターが医学部附属病院を含む全国421のがん診療連携拠点病院の院内がん登録データを公表	9.26 (月)	中日(朝刊)
26 社説:最年少棋士 AI時代の知のかたち 藤井聡太さん教育学部附属中学校2年生	9.26 (月)	朝日(朝刊)
27 全国高校ビブリオバトル2016:25日 教育学部附属高等学校が参加	9.26 (月)	読売
28 文部科学省が法科大学院の五段階評価を発表し、本学は基礎額の配分率が80%となった	9.27 (火)	中日(朝刊)
29 博物館主催地球教室「愛知県の石ピッチストーンってどんな石?」開催:10月22、23日	9.27 (火)	中日(朝刊)
30 史上最年少プロ棋士となる藤井聡太さん教育学部附属中学校2年生が瀬戸市役所を訪れ「もっと力を付けて、タイトルを狙いたい」と語る	9.27 (火)	読売
31 益川敏英本学特別教授の講演会が三重大学で10月5日に開かれる	9.28 (水)	日刊工業
32 顔:有機化学の最高賞を受賞する山本 尚本学名誉教授	9.28 (水)	読売
33 文学部・文学研究科同窓会 秋季サロン「中国の人びとの生活マナー」開催:10月15日 文学部2階237講義室で 森 正夫同名誉教授が講演	9.28 (水) 9.30 (金)	中日(朝刊) 毎日(朝刊)
34 メッセナゴヤ2016:大学生×中小企業=ユニーク家電 大学生と中小企業がタッグを組むメッセラボの運営責任者の宇治原 徹未来材料・システム研究所教授は「アイデアが1つでも多くかたちとなり、組織の枠を超えて技術を結集させるオープンイノベーションの契機になれば」と語る	9.28 (水) 10.12 (水)	中日(朝刊) 中部経済

本学関係の新聞記事掲載一覧 [平成28年9月16日～10月15日]

記事	月日	新聞等名
35 天野 浩未来材料・システム研究所教授が3年後をめどに GaN を用いた次世代半導体の低コスト製造技術の確立を目指す	9.28 (水)	産業新聞
36 高村ゆかり環境学研究所教授はパリ協定の批准が日本で遅れていることについて「日本が後れを取れば、発効後のパリ協定の会合で決定権を行使できなくなる」と語る	9.28 (水) 9.29 (木)	中日 (夕刊) 中日 (朝刊)
37 ノーベル賞、日本の候補は：化学賞で山本 尚本学名誉教授の名前があがる	9.29 (木)	毎日 (朝刊)
38 名古屋学芸大学は新学長に杉浦康夫本学名誉教授を選出	9.29 (木)	日刊工業
39 ブレークスルー2016：分子を結びつける仲人「ルイス酸触媒」を開発 山本 尚本学名誉教授	9.29 (木)	中日 (夕刊)
40 第19回全日本学生グライダー新人競技大会：小山雅裕さん本学学生、田中洋晃さん同学生が出場	9.29 (木)	朝日 (夕刊)
41 紙つぶて：一人前 株式会社ノリタケカンパニーリミテド会長種村 均氏本学卒業生	9.29 (木)	中日 (夕刊)
42 名大究める：自由にワクワク ノーベル賞に 伊丹健一郎トランスフォーマティブ生命分子研究所教授は「ベストの環境を若い人たちに提供し、応援したい」と語り、斎藤雄太郎さん博士後期過程2年生は「仲間と一緒に研究をするのは、野球と同じように楽しい」と語る	9.30 (金)	中日 (朝刊)
43 国道41号線 道沿い 街づくりで連携 野依良治本学特別教授、益川敏英同特別教授、小林 誠同特別教授、下村 脩同特別教授、赤崎 勇同特別教授、天野 浩未来材料・システム研究所教授が取り上げられる	9.30 (金)	中日 (朝刊)
44 坪木和久宇宙地球環境研究所教授は台風10号を巡る北海道、岩手県内の被害について「災害弱者は情報弱者でもある。行政が災害弱者に向け、適切な避難のあり方や情報の発信方法を考えることは、高齢化する日本にとって大きな課題だ」と語る	9.30 (金)	読売
45 朝日カルチャーセンター講座：「美と芸術の哲学Ⅱ～ハイデガーの芸術論 宮原 勇文学研究科教授、「太陽の王たちのピラミッド～エジプト研究最前線」 河江尚剰文学研究科研究員	9.30 (金)	朝日 (朝刊)
46 根づけ 名大発ベンチャー：学術研究・産学官連携推進本部主催「Tongali School」開講 土地柄？ これまで低調	10. 1 (土)	朝日 (朝刊)
47 やっぱりきになるノーベル賞：権威好き 国民性!? 山本 尚本学名誉教授が今年のノーベル化学賞の候補者と取り上げられる	10. 1 (土) 10. 2 (日)	毎日 (夕刊) 読売
48 第51回学生部書玄読書大会：毎日新聞社賞 野田結愛さん教育学部附属高等学校1年生	10. 1 (土)	毎日 (朝刊)
49 天野 浩未来材料・システム研究所教授はノーベル賞の受賞の決め手となった技術をさらに発展させ、「パワー半導体」の次世代型の開発を本格化させる	10. 2 (日) 10. 3 (月)	中日 (朝刊) 東京 (夕刊)
50 病院の実力：胃がん 本学の治療実績が取り上げられる	10. 2 (日)	読売
51 内堀外堀：ノーベル賞 なぜ名大は強いのか「自由な研究環境」や「学閥やしがらみの少なさ」	10. 2 (日)	中日 (朝刊)
52 本学は「名古屋大学特定基金 青色LED・未来材料研究支援事業」で寄付を募り天野 浩未来材料・システム研究所教授は「省エネ社会実現のため民間の力を結集しましょう」と呼びかけている	10. 3 (月) 10. 9 (日)	朝日 (朝刊) 中日 (朝刊)
53 荒木聡彦理学研究科講師らと愛知県水産試験場は共同で中国産の金魚「スイホウガン」の目の下にできる風船のような水泡から抽出した体液を、現代の医療や医学研究に欠かせない細胞の増殖促進剤として活用する研究を進めている	10. 3 (月)	中日 (朝刊)
54 スペシャリストに聞く 次世代半導体を担う GaN：天野 浩未来材料・システム研究所教授	10. 3 (月)	産業新聞
55 「メッセナゴヤ2016」開催：10月26日 天野 浩未来材料・システム研究所教授が講演	10. 4 (火)	読売
56 学生 eye：ピアノサークル 7大交流 名大で旧帝大合同コンサート ピアノ同好会会長星野聖奈さん本学2年生は「クラシック曲を弾こうか迷ったけれど、自分の好きなこの曲を演奏し、聴衆と楽しめてよかった」と語る	10. 4 (火)	中日 (朝刊)
57 凜としていきる 理系女性の挑戦：自動車向け接合技術開発 目的持てる仕事環境構築 日産自動車株式会社車両生産技術本部要素技術開発グループ主担渡辺由布氏本学博士課程修了	10. 4 (火)	日刊工業
58 遠藤斗志也本学名誉教授は、ノーベル医学生理学賞の受賞が決まった東京工業大学栄誉教授大隅良典氏について「いつの間にか研究の適用分野が広がり、若い世代に基礎研究の大切さを説かれていた」と語る	10. 4 (火)	中日 (朝刊)
59 日本のノーベル賞 25人目 野依良治本学特別教授、益川敏英同特別教授、小林 誠同特別教授、下村 脩同特別教授、赤崎 勇同特別教授、天野 浩未来材料・システム研究所教授が取り上げられる	10. 4 (火)	毎日 (朝刊) 他6社
60 国道41号線のノーベル街道 富山一名古屋一岡崎まで延伸 野依良治本学特別教授、益川敏英同特別教授、小林 誠同特別教授、下村 脩同特別教授、赤崎 勇同特別教授、天野 浩未来材料・システム研究所教授が取り上げられる	10. 4 (火)	中日 (夕刊)
61 第28回アジア・太平洋賞：特別賞 書籍「福祉のアジア 国際比較から政策構想へ」上村泰裕環境学研究所准教授 (名古屋大学出版会)、書籍「中国経済学入門」神戸大学教授加藤弘之氏 (名古屋大学出版会)	10. 5 (水)	毎日 (朝刊)
62 氏原 温環境学研究所准教授が発案した水族館にいる魚の魅力を紹介する力を競う第1回「イクチオバトル」が開かれる	10. 5 (水)	毎日 (朝刊)
63 名古屋大学二葉会美術作品展開催：12日～16日 ノリタケの森ギャラリーで開かれる	10. 5 (水)	中日 (朝刊)
64 Culture：板谷親子の志 受け継ぐ 藤井四段を生んだ東海研修会 藤井聡太さん教育学部附属中学校2年生もOBの1人	10. 5 (水)	中日 (朝刊)
65 ノーベル賞受賞者ら訴え 基礎研究 もっと支援を 3年連続、日本のノーベル賞受賞者 赤崎 勇同特別教授、天野 浩未来材料・システム研究所教授が取り上げられる	10. 5 (水)	中日 (夕刊)

本学関係の新聞記事掲載一覧 [平成28年9月16日～10月15日]

記事	月日	新聞等名
66 ノーベル賞 2000年から受賞ラッシュ 野依良治本学特別教授、益川敏英同特別教授、小林 誠同特別教授、下村 脩同特別教授、赤崎 勇同特別教授、天野 浩未来材料・システム研究所教授が取り上げられる	10. 6 (木)	読売
67 2016年ノーベル化学賞を受賞したノースウエスタン大学教授フレーザー・ストダート氏は2004年に、フローニンゲン大学教授ベルナルド・フェリング氏は2013年に本学が共催している名古屋メダルのゴールドメダルに輝いている	10. 6 (木)	中日 (朝刊)
68 伊丹健一郎トランスフォーマティブ生命分子研究所教授はフローニンゲン大学教授ベルナルド・フェリング氏について「なんでも積極的にチャレンジする性格で、発想やアイデアがすごい方」と語る	10. 6 (木)	中日 (朝刊)
69 田中健太郎理学研究科教授は2016年ノーベル化学賞を受賞したストラスブール大学名誉教授ジャンピエール・ソバージュ氏について「機会があれば直接、祝福したい」と語る	10. 6 (木)	中日 (朝刊)
70 ザ・科学遺産：化学編④ 下村 脩本学特別教授の「たも網」研究材料のクラゲを捕獲した網	10. 6 (木)	中日 (夕刊)
71 「九条の会」正念場 世話人12人を補強 / 新たな運動と連携するか 九条の会・世話人 愛敬浩二法学研究科教授、池内 了本学名誉教授	10. 6 (木)	毎日 (夕刊)
72 名古屋大学消費生活組合は1食あたり10円が基金に寄付される「名古屋大学ベジタブルカレー」を15日のホームカミングデーで発売する	10. 6 (木) 10.14 (金)	日刊工業 朝日 (朝刊)
73 日本経済団体連合会会長榊原定征氏本学卒業生 民主導でイノベーション 競争力を極大させる戦略	10. 6 (木)	日刊工業
74 トヨタ自動車株式会社社長内山田志氏本学卒業生 明確なテーマ設定し協調 高精度3次元地図を検討	10. 6 (木)	日刊工業
75 紙つぶて：経営者の自戒 株式会社ノリタケカンパニーリミテド株式会社社長種村 均氏本学卒業生	10. 6 (木)	中日 (夕刊)
76 オピニオン&フォーラム：危機下の「財界総理」「憲法は後でいい」経済最優先を提言 放置なら日本消滅 日本経済団体連合会会長榊原定征氏本学卒業生	10. 7 (金)	朝日 (朝刊)
77 日本地震学会一般公開セミナー「海洋底から巨大地震に迫る」開催：8日 山岡耕春環境学研究科教授が南海トラフ巨大地震を概況	10. 9 (日)	読売
78 和田 肇法学研究科教授は原発再稼働に向けた原子力規制委員会の審査に係る電力会社の業務について、厚生労働省が「公益上の必要により集中的な作業が必要」として、労働基準法で定めた残業時間制限の大部分を適用しないと通達を出していたことについて「原発再稼働のように社会的に議論されている問題について、局長通達という形で対応していいのか大いに疑問だ」と語る	10. 9 (日)	中日 (朝刊)
79 自動運転 OS 世界標準に 名大発ベンチャー「ティアフォー」創業者 東京大学准教授加藤真平氏元本学准教授	10. 9 (日)	朝日 (朝刊)
80 働く力再興：労使トップに聞く 日本経済団体連合会会長榊原定征氏本学卒業生 脱時間給で生産性向上	10. 9 (日)	日経 (朝刊)
81 「モレキュラー・フロンティア シンポジウム2016」開催：9日 野依良治本学特別教授、天野 浩未来材料・システム研究所教授が出席	10.10 (月)	読売
82 武村雅之減災連携研究センター寄附研究部門教授は小堀鐸二研究所と共同で、1923年の関東大震災の余震が本震の震源域から遠くはなれた場所でも起きていた可能性が高いとの結果を発表	10.10 (月)	日経 (朝刊)
83 氏原 温環境学研究科准教授が発案した水族館にいる魚の魅力を紹介する力を競うイクチオバトルの第1回大会が碧南海浜水族館で開かれた	10.10 (月)	毎日 (朝刊)
84 紙つぶて：宇宙と素粒子の探求 早川幸男本学元総長を前に京都大学名誉教授湯川秀樹氏が話した様子 愛知大学名誉教授坂東昌子氏	10.11 (火)	中日 (夕刊)
85 医療事故調1年：検証手法の標準化を 長尾能雅医学部附属病院教授	10.12 (水)	毎日 (朝刊)
86 旬の人時の人：最年少で将棋プロ棋士に 藤井聡太さん教育学部附属中学校2年生	10.12 (水)	日経 (朝刊)
87 東海地方のがん患者らでつくる音楽グループ「めぐみ音」が医学部附属病院でコンサートを開いた	10.12 (水)	毎日 (朝刊) 読売
88 紙つぶて：米国での車選び 株式会社ノリタケカンパニーリミテド株式会社社長種村 均氏本学卒業生	10.13 (木)	中日 (夕刊)
89 環境医学研究所公開講座「最新脳科学が解き明かす睡眠の謎ーヒトはなぜ眠るのか」開催：15日 講師 山中章弘環境医学研究所教授ら	10.14 (金)	毎日 (朝刊)
90 読書の秋 目利き、が薦める3冊 書籍「日中の120年 文芸・評論作品選 (全5巻)」張競・村田雄二郎編、書籍「『領土問題』の論じ方」高原明生ら著、書籍「尖閣諸島問題 領土ナショナリズムの魔力」岡田 充著 丹羽宇一郎本学名誉博士の推薦本	10.14 (金)	毎日 (夕刊)
91 本学が中心となり表彰してきた「名古屋メダル」への注目が高まっている 名古屋メダルは、野依良治本学特別教授と山本 尚同名誉教授が発案し、同メダル選考委員長の伊丹健一郎トランスフォーマティブ生命分子研究所教授は「若い研究者や学生が羽ばたくきっかけになってくれれば」と語る	10.15 (土)	中日 (夕刊)

開催月日・場所・問い合わせ先等

内容

10月8日(土)～3月11日(土)

(期間中の土曜日 全8回)

場 所：経済学部2階
カンファレンスホール

時 間：10:00～12:00

対 象：中学生以上、一般

参加費：無料

平成28年度名古屋大学オープンレッジ

「自由奔放！サイエンスー知識・博学への挑戦」

内 容：大学の研究室で行われている最新の研究やその熱意をできるだけわかりやすく伝える

[問い合わせ先]

経済学研究科

エクステンション・サービス

ecoextender@soec.nagoya-u.ac.jp

10月20日(木)～1月31日(火)

場 所：附属図書館医学部分館
2階入口ホール

時 間：9:00～20:00 (平日)
(1/5、6は9:00～17:00)、
13:00～17:00 (土曜日)

休 館 日：日・祝日、
12月28日～1月4日、7日

入 場 料：無料

附属図書館医学部分館ミニ企画展「看護の力

ー医学部史料室所蔵資料に見る看護のあゆみー

内 容：医学部史料室（附属図書館医学部分館4階）に所蔵する史料の中から、看護のあゆみに関連する図書、写真などを展示公開する

[関連特別講演会] (12/16)

場 所：医学部基礎研究棟1階会議室2

時 間：14:00～15:30

講演題目：「結核のロマン化と病気の本質」

講 演 者：福田真人（国際言語文化研究科教授）

[問い合わせ先]

附属図書館医学部分館 052-744-2505



10月31日(月)～1月27日(金)

場 所：博物館野外観察園
セミナーハウス2階

時 間：10:00～16:00

休 館 日：土・日・祝日、
12月29日～1月3日

入 場 料：無料

博物館野外観察園セミナーハウス サテライト展示

「野外観察園ポスター展」

内 容：毎月見ごろの植物を紹介する「今月の野外観察園」を一斉展示し四季折々の植物を紹介する

[問い合わせ先]

博物館事務室 052-789-5767



11月15日(火)～1月28日(土)

場 所：博物館2階展示室

時 間：10:00～16:00

休 館 日：日・月曜日、
12月29日～1月3日、14日

入 場 料：無料

第34回博物館企画展

「誇張なきアートー科学記録にみる美ー第1期」

内 容：動物や植物、人体などの教育・研究を通して名古屋大学に残された貴重な記録を紹介ー精密な描写技術がアートを感じさせます

[問い合わせ先]

博物館事務室 052-789-5767



開催月日・場所・問い合わせ先等

内容

11月19日(土)

場 所: ES 総合館 1 階 ES ホール
時 間: 13:20~16:30
定 員: 200名
対 象: 一般
参 加 費: 無料

第18回まちとすまいの集い「しなやかな人・建築・都市」

講演題目: 「持続可能な緑地管理とそのマンパワーを考える。
ー景域管理作業量を測るー」

講 演 者: 清水裕之 (環境学研究科教授)

講演題目: 「しなやかに暮らす」

講 演 者: 久野 寛 (環境学研究科教授)

講演題目: 「建築技術としなやかな回復」

講 演 者: 長江拓也 (減災連携研究センター准教授)

内 容: 建築学で取り扱う「人・建築・都市スケール」の諸問題に対して将来にわたり持続可能な社会を目指し、どのように「しなやか」に向き合い対応していく必要があるのか。計画・意匠・環境・設備・構造・材料の各分野の教員が論じ「しなやか」というテーマから横断的に考える



[問い合わせ先]

環境学研究科建築学教室 052-789-5233

11月19日(土)

場 所: 医学部附属病院中央診療棟
3 階講堂
時 間: 13:30~16:15
定 員: 200名
対 象: 一般
参 加 費: 無料

平成28年度鶴舞公開講座「『がん』最新スタンダードー予防・治療・暮らしの観点からー」

講演題目: 「がんを防ぐ、がんを早くみつける」

講 演 者: 内藤真理子 (医学系研究科准教授)

講演題目: 「知って納得、がん治療」

講 演 者: 満間綾子 (医学系研究科特任講師)

講演題目: 「がん相談と暮らしのサポート」

講 演 者: 黒柳佳代 (医学部附属病院地域連携・患者相談センター看護師)



[問い合わせ先]

医学部・医学系研究科総務課 052-744-2040

11月21日(月)

場 所: ES 総合館 1 階 ES ホール
時 間: 13:30~17:30
対 象: 一般
参 加 費: 無料

第25回次世代自動車公開シンポジウム 「次世代パワーレーザの産業応用と核融合への展開」

[問い合わせ先]

未来社会創造機構 052-747-6868

11月22日(火)

場 所: 情報基盤センター 4 階演習室
時 間: 13:00~14:30
定 員: 40名
対 象: 一般
参 加 費: 無料

平成28年度第 8 回 情報連携統括本部公開講演会・研究会

講演題目: 「サイバー攻撃への備えと対応体制の必要性」

講 演 者: 洞田慎一氏 (一般社団法人 JPCERT コーディネーションセンターマネージャ)

[問い合わせ先]

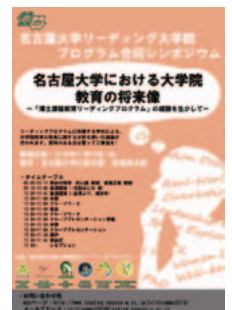
情報推進部情報推進課 052-789-4352

11月23日(水)

場 所: ES 総合館 1 階 ES ホール、
環境総合館
時 間: 9:00~17:45
対 象: 学生、一般
参 加 費: 無料

博士課程教育リーディングプログラム 合同シンポジウム 「名古屋大学における大学院教育の将来像 ー『博士課程教育リーディングプログラム』の 経験を生かしてー」

内 容: 講演、グループワーク・プレゼンテーション、他



[問い合わせ先]

PhD 登龍門推進室
jointsympo2016@leading.nagoya-u.ac.jp

開催月日・場所・問い合わせ先等

内容

11月23日(水)

場 所：博物館野外観察園、
博物館 2階展示室
時 間：13:00～15:00
参 加 費：無料

博物館野外観察園見学会

講 師：西田佐知子（博物館准教授）、野崎ますみ（同研究員）
内 容：季節の花をみながら自然を学び、電子顕微鏡でミクロの自然を見る



[問い合わせ先]

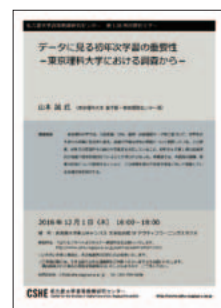
博物館事務室 052-789-5767

12月1日(木)

場 所：文系総合館 5階
アクティブラーニングスタジオ
時 間：16:00～18:00
対 象：本学および近隣の大学関係者
参 加 費：無料

高等教育研究センター
第138回招へいセミナー

講演題目：「データに見る初年次学習の重要性
—東京理科大学における調査から—」
講 演 者：山本 誠氏（東京理科大学副学長・教育開発センター長）
内 容：東京理科大学の調査の経緯・結果の詳細について説明するとともに、初年次学生に対して実施している各種対策を紹介する



[問い合わせ先]

高等教育研究センター
教授 夏目達也 052-789-5693

12月9日(金)

場 所：理学南館 1階坂田・平田ホール
時 間：16:00～17:30
定 員：250名
対 象：一般
参 加 費：無料

平成28年度全学同窓会講演会

講演題目：「科学技術の課題と展望」
講 演 者：濱口道成氏（本学前総長）



[問い合わせ先]

全学同窓会事務局 052-783-1920

12月10日(土)

場 所：松本市立博物館分館重要文化財
馬場家住宅（長野県松本市）
時 間：13:00～16:40
定 員：30名
対 象：一般
参 加 費：無料

重要文化財馬場家住宅研究センター
平成28年度研究交流会

「専門家が語る馬場家住宅の魅力
—重要文化財指定20周年を記念して—」

講演題目：「本棟造としての馬場家住宅（仮題）」
講 演 者：吉澤政己氏（信州伝統的建造物保存技術研究会副理事長）
講演題目：「『再考』馬場家住宅（仮題）」
講 演 者：堀田典裕（重要文化財馬場家住宅研究センター助教）
内 容：講演、囲炉裏端談義、他



[問い合わせ先]

重要文化財馬場家住宅研究センター
052-789-3748

12月10日(土)、2月11日(土)

場 所：博物館 2階展示室
時 間：14:00～15:00
定 員：200名（立ち見あり）
参 加 費：無料

博物館コンサート NUMCo

「フルーツ・トリオが贈るクリスマスコンサート」(12/10)
演奏曲目：「くるみ割り人形メドレー」、「クリスマス・メドレー」、他
出 演：辺見亜矢氏、日置智美氏、朝倉ゆき氏

「ミュージックベルの調べ」(2/11)
出 演：ソネット



[問い合わせ先]

博物館事務室 052-789-5767

イベントカレンダー

開催月日・場所・問い合わせ先等

内容

12月12日(月)、13日(火)

場 所：野依記念学術交流館
時 間：9:30~17:40 (12/12)、
9:30~17:30 (12/13)
対 象：学生、研究員、教員、
企業関係者、他
参 加 費：無料(懇親会は有料)

トランスフォーマティブ生命分子研究所 (WPI-ITbM)
第4回国際シンポジウム
The 4th International Symposium on Transformative Bio-Molecules
(ISTbM-4)

[第12回平田アワード] (12/12)
講 演 者：Emily Balskus 氏 (ハーバード大学)

[問い合わせ先]
トランスフォーマティブ
生命分子研究所
特任准教授 佐藤 綾人 052-747-6856

[第2回岡崎アワード] (12/12)
講 演 者：山下由紀子氏 (ミシガン大学)

12月17日(土)

場 所：農学部講義棟3階第1講義室
時 間：10:30~17:00
定 員：30名
対 象：学生、一般
参 加 費：無料

都市の木質化連続講座「森と街を元気に、
木で豊かなくらしをつくる WOODist の育成」

[第4回]
講演題目：「これからの森づくり-Woodist makes Woodism-」

[問い合わせ先]
生命農学研究科
生物材料工学研究室 052-789-4147



12月23日(金)

場 所：博物館2階実験室
時 間：13:00~16:00
定 員：24名
対 象：小学5年生以上、一般
参 加 費：500円(保険料)

ミクロの探検隊®
「ミクロの世界をのぞいて放散虫の進化に触れよう！」
—電子顕微鏡のふしぎ—

[問い合わせ先]
博物館事務室 052-789-5767



表紙サークル紹介



表紙
練習風景(放送文化研究会)
(平成28年10月17日)

放送文化研究会

放送文化研究会には、アナウンス研究会、技術研究会、プロデュース研究会の3つの研究会が存在します。ラジオ番組、ドキュメンタリー、ドラマ、旅番組、公開クイズ番組など様々なものが制作され、それぞれの研究会で、また放送文化研究会全体で、放送に関するスキルを高めています。毎週土曜日には編成部会が行われ、メンバー全員で会議をして今後の活動の方針を決定したり、完成した作品の発表および反省などを行ったりして、よりよい作品作りに生かしています。2016年度後期は、アナウンス研究会が毎週月曜日、技術研究会が毎週木曜日、プロデュース研究会が毎週金曜日に活動しています。後期からの入部もお待ちしております。公式HPも是非ご覧ください!!

名大トピックス No.282 平成28年11月15日発行

編集・発行/名古屋大学総務部広報渉外課

本誌に関するご意見、ご要望、記事の掲載などは広報渉外課にお寄せください。

名古屋市千種区不老町 (〒464-8601) TEL 052-789-2016 FAX 052-788-6272 E-mail kouho@adm.nagoya-u.ac.jp

名大トピックスのバックナンバーは、名古屋大学のホームページ (<http://www.nagoya-u.ac.jp/about-nu/public-relations/publication/index.html>) でもご覧いただけます。

175 名帝大初代総長渋沢元治の小山松寿宛書簡 こやまつじゅ

1939(昭和14)年の名古屋帝国大学(名帝大)の創立には、戦時下で新しい大学の設置に積極的ではなかった国を説得する必要がありました。それには、地元選出の衆議院議員の協力が不可欠でした。

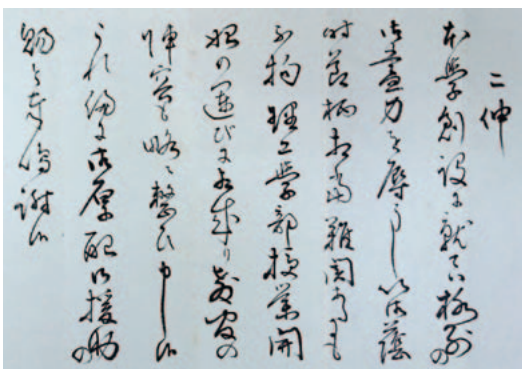
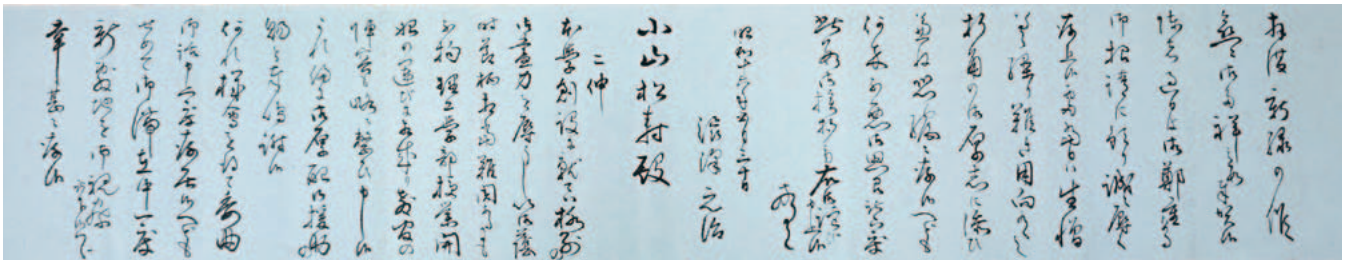
当時、名古屋を代表する政治家であったのが小山松寿衆議院議員です。小山は、名古屋新聞(中日新聞の前身の1つ)の経営者として、名古屋の言論界にも大きな影響力を持っていました。ただ、小山が名帝大創立に果たした具体的な役割を示す史料は少なく、その解明が待たれています。今回は、活字の形では昨年初めて公開された史料を紹介します。

小山は、1938年に結成された「名古屋総合大学設置期成同盟会」では顧問になっていますが、衆議院議長という立場上、愛知県から選出された議員の連名で同年に衆議院へ提出、可決された「名古屋帝国大学設立に関する建議案」

には、1人だけ名前を載せられませんでした。

しかし名帝大創立後の1941年5月、渋沢元治総長は小山に、何かの招待をやむをえない用事のため辞退する書簡を送りました。その追伸部分には、名帝大の創立にあたっては、小山の「格別の御尽力」があり、「時節柄相当難関」にもかかわらず、無事に理工学部^{しぶさわもとじ}の授業が開始でき、教官の陣容も整ったとして、これも「偏に御厚配御援助^{ひとせつがら}の賜^{たまもの}」と感謝する文言などが書かれています。

また、昨年初めて公開された、小山の長女である小山千鶴子氏(2010年逝去)の回想談も注目されます。千鶴子氏は、小山が名帝大創立に「骨折った」こと、のちに小山が名帝大医学部^{なごや}附属医院で舌ガンの手術をした時、勝沼精蔵教授や齋藤真教授が、小山は名帝大医学部の「真の功労者」であるとして、その命を全学挙げて救うと述べた、などと語っています。



- | | | |
|-----------|--|---|
| 1 | 1 小山松寿宛渋沢元治書簡(1941(昭和16)年5月30日付、国会図書館憲政資料室受託「小山松寿関係文書」所収)。この書簡の活字翻刻及び小山千鶴子氏の回想談は、山田公平編『名古屋新聞・小山松寿関係資料集』第7巻(龍溪書舎、2015年)に掲載されている。なお、この写真の掲載は、史料所有者の小山 勇氏(中日新聞社常任顧問)のご厚意によるものである。 | 3 小山松寿(1876-1959)。1906年に名古屋新聞を創刊し、名古屋を代表する新聞に発展させた。名古屋市会議員を務めた後、1915(大正4)年には衆議院議員に初当選し、以後10回連続当選した。憲政会やその後身の立憲民政党の有力ポストや農林政務次官を歴任した後、1937年には衆議院議長に就任した。 |
| 2 3 4 | 2 1の追伸(二伸)部分前半。小山の尽力への感謝が述べられている。 | 4 渋沢元治名帝大初代総長。この書簡を書いた頃の渋沢総長は、理工学部から理学部を独立させることに奔走中であった。 |